

授業科目名	演劇入門	担当教員 平田 オリザ			
必修の区分	選択				
単位数	2 単位				
授業の方法	講義				
開講年次	2年 第1クオーター				
講義内容	<p>講義内容 本講座は、文化人類学的な演劇の起源、西洋演劇史、日本演劇史など、歴史的概観を縦軸に、現在の戯曲論と演出論、演技論、舞台制作論を横軸において、立体的に演劇の実践と演劇論の全体像をつかむ構成となっている。</p> <p>パフォーミングアーツを専門とする学生の入門という位置づけを鑑み、「人はなぜ演じるのか」「なぜ、人類は演劇を必要としてきたのか」といった根源的な問い合わせから出発し、現状の世界演劇の俯瞰図、およびその体系を把握することを最終目標とする。</p> <p>また、特に、近代日本演劇史に重点を置き、主要な演出家の演出論と演技論の分析から、演劇を批評的に見る態度を習得させる。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 受講した学生は、世界と日本の演劇史の基本的な知識を身につけ、その起源から現代に至る過程を系統立てて語る能力を身につける。 受講した学生は、観劇において、単なる表層的な感想を持つだけでなく、歴史的な位置づけによる分析が行えるようになる。 受講した学生は、グループワークを通じて、演劇について多角的に議論をする態度を身につける。 人類史における演劇の役割を理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演劇の起源 世界と日本の演劇の起源について、その概観を学ぶ。 並行して課題図書を紹介し、個人研究の課題を説明する。 2. 西洋演劇史 ギリシャ悲劇からシェイクスピア、チェーホフ、現代演劇に至るまでの概観を示し、グループワークに入る。 3. グループ発表 1 担当する演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。 4. グループ発表 2 担当する演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。 5. 日本演劇史 				

	<p>歌舞伎、能、狂言、文楽と行った古典芸能から、近代日本演劇そして現代演劇へと至る過程を示し、グループワークに入る。</p> <p>6. グループ発表 1 担当する日本の演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>7. グループ発表 2 担当する日本の演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>8. 現代演劇論 現状観劇可能な現代演劇の主な作家をとりあげ概要を把握しグループワークに入る。</p> <p>9. グループ発表 1 担当する現代の演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>10. グループ発表 2 担当する現代の演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>11. 課題発表 1 学期を通じて行ってきた個人研究の発表と討議</p> <p>12. 課題発表 2 学期を通じて行ってきた個人研究の発表と討議</p>
事前・事後 学習	学習各回、個人、グループ対象の課題が出されるので、次回の講義までに準備をすること。 グループワークが多く取り入れられるので、事前事後に時間を調整し課題に取り組むこと。
テキスト	授業ごとに配布
参考文献	平田オリザ『演劇のことば』(岩波書店)
成績評価 の基 準	グループワークでの相互評価 30% 授業への発言・貢献 30% レポート 40%

履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	